

# 平成17年度 名寄地方中体連バスケットボール大会 男子 決勝 戦評

		6 - 16		
名寄中	37	9 - 22	76	名寄東中
		10 - 17		
		12 - 21		

主審  
副審

## 第1ピリオド

名寄中学校は1 - 1 - 3ゾーン。東中学校はマンツーマンディフェンスでスタート。序盤 東中は、ゾーンに対して積極的にアウトサイド、インサイドからシュートを打つもののなかなか決まらず、フリースローも決めることができない。一方名寄中も、ターンオーバーを重ねるが、生田目のゴール下シュートで、先制点を奪う。名寄中はカウント後、オールコートマンツーマンに、ディフェンスを変え相手を攪乱し、連続して得点し6 - 0とする。ここで東中は、すかさずタイムアウト。

タイムアウト後も、ターンオーバーがあり名中ペースが続くように見えたが、名中もなかなか加点することができない。東中は のドライブからのシュートをきっかけに、2 - 2 - 1ゾーンプレスで、相手のターンオーバーを誘い、フリースロー、ゴール下シュートなどで、6 - 5と追いつける。東中は、 が3回目のファールをし状況が悪くなったが、アウトサイドシュート、ポストプレイドライブインなど、バランスよく攻撃し6 - 11と引き離していく。名寄中はボール運びでのターンオーバーが続き、なかなかシュートまで持っていくことができない。また、ゾーンディフェンスも簡単に割られてしまうようになり、主導権を東中に奪い返されたまま、第1ピリオドが終了。

## 第2ピリオド

第2ピリオドは、東中がオールコートマンツーマンと2 - 2 - 1プレスディフェンスで、ボールを支配。オフェンスでも、名寄中のゾーンを簡単に割り得点を重ねていく。名寄中も 羽生が3Pやゴール下で頑張りを見せるが、プレスダウンがうまくいかず、なかなかシュートまで持っていくことができない。シュートを打っても、東中のきちんとしたボックスアウトのためにオフェンスリバウンドが全くとれない。東中はリバウンドからの速攻や、上西の3Pなどで着実に加点し、前半を15 - 38のリードで折り返した。

## 第3ピリオド

後半になり、名寄中はマンツーマンにディフェンスをチェンジするが、オフェンスリバウンドを支配されると共に、切り返しの早さについていくことができず、差が広がっていく。東中は交替で出てくる選手も、自分の役割を果たし、25 - 56で第3ピリオドを終了。

## 第4ピリオド

第4ピリオドになり、名寄中は再びゾーンディフェンスに戻すが、東中はあわてず点数を重ねた。最終スコアは37 - 76と東中の勝利に終わったが、名寄中も最後の中体連ということで、最後まで一生懸命プレイする姿が印象に残った。東中は序盤こそ名寄中にペースをつかまれたが、その後ほんらいのプレイを取り戻し、終始ディフェンス、リバウンドでボールを支配した。支庁大会で旭川の強豪相手にどれだけプレイできるか楽しみである。

戦評 堀口創平